



艾君私羽仙譜集  
上

~ 5
5620
1





明 八 5  
號 5620  
卷 1

弘化戊申春梓也

艾君虬公羽儀祉集

禾安 友慰令編

序



志 (A vertical column of cursive calligraphy, likely the beginning of the preface or a dedication, starting with the character '志').

101















はくしき出立体の髪白くし海を越え初かた  
しめ白く身の次顔は名人の誉れを歌し  
さうも世帯を傳へてかのいしりのまらるを  
つさぬくし風の暮るる集の歌くも借使  
平信風終せし南風は世々しやうんれ露の  
庭の徳ありとくつさうおらま世の髪白くも  
さうつしし一本の傳せし世々しんすし  
伝信のまらるるく小露を真志て今もあふし  
清風士志終せしししあ終ししは世子終り  
何んこしははつさうししししししし

小冊をたのむよし年を過すはらるるさうし  
けしきふあらるるししししししししし  
翠外の伝信をねもねるる骨伝すししあふ  
つししあふししししししししししししし  
さうさげらるるししししししししししし  
ししししししししししししししししし  
さうまはあはすしししししししししし  
伝信もえ流るるしししししししししし  
ししししししししししししししししし  
ししししししししししししししししし







十餘年けしんかきかきけりともまに 札

合衆のきつ紙——ふりゆく砂山 衆

夕くけ小板戸のふりをきりけりて 撞

おききかきをらききけりて 衆

さいしきの果もきりけり南郊領 衆

ふりけりてきりてきりて有明 札

きりけりてきりてきりてきりて 衆

きりけりてきりてきりてきりて 撞

かききりてきりてきりてきりて 札

はきりてきりてきりてきりて 衆

きりてきりてきりてきりてきりて 撞

きりてきりてきりてきりてきりて 衆

何れもけりてきりてきりてきりて 衆

年馬——けりてきりてきりて 札

きりてきりてきりてきりてきりて 衆

きりてきりてきりてきりてきりて 撞

葛餅のきりてきりてきりてきりて 札

けりてきりてきりてきりてきりて 衆

きりてきりてきりてきりてきりて 撞

はきりてきりてきりてきりてきりて 衆







ちりか〜後の少母と〜

ちりか〜

掃の糸り〜

掃の糸り〜

牽〜

牽〜

終〜

終〜

春〜

春〜

す〜

それ〜

池り〜

お〜

お〜

枯〜

す〜

ち〜

泥〜

産〜

お〜

札

確

札

確

札

確

札

確

札

確

札

一

札

確

札

確

札

確

札

確

札



あつたてりしる月れをさし  
確

音るれ枝枝おしめを  
札

松葉のこ林をさし  
札

終るもゆきけひるを  
確

初日もはるふ伴仕のたか  
札

てはらうとつふ下者のま  
札

高ふすこ雪こほる  
確

もか木と折るを  
札

おきれまをたへ入  
五芽

比し川もさのけし  
芽

人衆おうたをさく  
茂推

ひちちをさけし  
芽

蕭なるとの  
札

おきりし  
推

け秋のなをれも  
芽

地を  
札

七  
四

七  
二



おゆれをた乃きぬはあけの松 檜

みのむしー経中糸はれあき 芽

寺多段の糸とくをぬる 檜

春日乃さし給ふかけー小志 檜

湯をぬふーしの業をきはち也 芽

甲十区ても換ふはるく 檜

と徳くと藤層のもゆるちれは 檜

町戸のおともうけあけ 芽

れ、たふなみゆたこふ音結しあか 檜

てんかんやふあそかめあき 檜

うねのねもたぬりそかーのりそ 芽

け渡さるるゑもーふあき 檜

物の来々々もむきさるるやん 檜

かさうりあありー伝母の志明 芽

はくたもようーおの夏も伝あたま 檜

さそつーなるは松房の汁 檜

龍目もあーつるけ檜板 芽

上流介ーくらくあきとく 檜

お志やへのはくしてあき月の角 檜

をちかとするもはるけあき 芽



木の葉やく秋まきひに記す新船  
 札  
 かやきさしき帰る木兔  
 推  
 岩を流るおとせしりもば  
 芳  
 新船ふるきしを舟子掛ける  
 札  
 志ねのふ船中啼あす日くれう  
 権  
 このしりあふる白のるを記  
 牙  
 侍衆のちげうはのちと前と分て  
 札  
 けうけのむれりふる板とら  
 推

文政五年冬

か買あひ

うねあられもらてう終るやふり井里 芳札  
 ねのちのうれはちながりらる 挿札  
 さつわし強の垣成肘しうきとせし 札  
 かいししてをく新けしん能 江  
 然る故しき語をさしに音の月 札  
 樽けすあしきさしりあはく 江  
 買まやし侍申のは見ころるけと 札  
 ふ里うえし旗け悪くは 江



あゝと小舟ふきく歌く歩ゆれ	札
さゆゝ色ふきかのちれぬ	江
法号あまねくくさる道楽そり	札
ぬれまゝぬれけん瘡をまむ	江
古今ふと機織はく乃なるさみふ	札
けろり〜と木の葉ふる月	江
けろりあまふきふたも那〜	札
村をたふちふるるカけひと申	江
やふ入りふと忌てまゐる草太伝	札
さそれらも〜ぬれれん 舞	江

山あゝとふるすけくふるふ再あ〜	一
足踏ぬく〜ぬ〜ぬやぬ〜ん	札
角ふまけ伊勢ふ〜舞を割りし	江
う〜きふ首をあもすゆ〜さる	札
魚の腹はあふ〜た〜のあ〜なり	江
壁をき〜を〜ふ申のつ〜ほ〜	札
け〜道ふ〜人〜や〜ぬ〜ぬ	江
市りけ茶乃履もぬ〜ぬ	札
中極〜ま〜婦の中け〜ぬ〜ぬ	江
保はを〜ぬ〜ぬふもふ弁さす	札



香船泊りやうのも入れる館の月  
 市橋せまの草花へーさむ  
 空のけしき山崎のつらさたり  
 昔やうの頃のさきさき  
 下ふいばとて山崎の柳のけしき  
 子き川をさうさく子けし  
 空れんとふけしきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき

春の空を越へてさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 梅の花のけしきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき  
 さきさきさきさきさきさき







稽しみのきりぎりすの月よおし

くしきやきつるの月よおし

はくしきやきつるの月よおし

はくしきやきつるの月よおし

大はくしきやきつるの月よおし

大はくしきやきつるの月よおし

大はくしきやきつるの月よおし

大はくしきやきつるの月よおし

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

磯崎におもむきおしりきり

柳をちりほり木仏の枝おし

眼障のうけ葉をまきしり

終ふりきりきりおし

去後いまをほりおし

終ふりきりきりおし

終ふりきりきりおし

終ふりきりきりおし























侍好も新中をえられうまきれり  
 幸く御入人とも御川を渡  
 移り啼をおあうり 留る日座らと  
 志中ころまふ 何う心すなり  
 ちりゆくとおお給ひー 吾我の里  
 春中 海舟のころ川つとく喜  
 ち枝てかつひてまをさつける真  
 ちく給入ころ 菜をすとも 樽  
 弁 親 札 弁 親 札 弁 親

文政九年戌春

古き船と何とて御より字をれ玉 春札  
 新井乃御りとわらふまは 糸紫  
 引あつとらふ川 船中を袖と 札  
 おろりけくあつとらふさし 紫  
 海を都て月一少のさをかき合せ 札  
 やうて二事け 何なる中 波 紫  
 海を都り船のれらふ、浪の所 札  
 ちほさとも修く 船中を 紫







大いなりくくくくくくくくくく

葉

舌百さうくくくくくくくく

札

ひつせりとれのかくくくくく

葉

幽曲くくくくくくくくく

札

旅とそくくくくくくくくく

葉

きんせきくくくくくくくく

札

斗きんせきくくくくくくく

葉

恵くくくくくくくくくく

札

くくくくくくくくくく

くくくくくくくくくく

いのみくくくくくくくく

塚見

まのくくくくくくくくく

葉

朝月おきくくくくくくく

見

くくくくくくくくくく

札

枝くくくくくくくくくく

見

くくくくくくくくくく

札

何れくくくくくくくくく

見

くくくくくくくくくく

札



けうすもあふ四五のつきあひ  
 ねあひ——おののけふ丸橋  
 石竹小傘の志川とを担きつて  
 とまも新酒をやすむ隙の日  
 理庵にたかずの影を掛あそび  
 夢あむちり——たのふち柄を記  
 さうやさも判らさくもふ徳のせ  
 喜井——何処へ行くをく  
 行はのささかたふ徳をきかせ  
 旅路をくふ行をりとかす

兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄

子猫のまふせむけの影の色青く  
 ふら／＼しむる空のかげ  
 海風はふる信もそそぐ信をり  
 月の中絶——新井を担ひ  
 空のけつと物もさそふ海の程多  
 横舟——地をききふすか  
 是れらのあひくぬけ——はむさ  
 月をくぬきあふらそふ野の毛  
 月をくぬきあふらそふ野の毛

兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄 兄







よらむとて始むるつらと面あけ

机

よからむ枝の標のこりり香

机

川よりのこらふさうく夏あけ

机

飛やまきり鳴あき月

机

ひらりあも物あはくる田舎寺

机

林葉の志くくそたすすたの海

机

けりくくくくくくくくくく

机

きりくくくくくくくくくく

机

きりくくくくくくくくくく

机

きりくくくくくくくくくく

机

難くくくくくくくくくくく

机

井の中を流るる水は清く

机

かきくくくくくくくくくく

机

きりくくくくくくくくくく

机

地を流るる水は清く

机

日あけくくくくくくくくく

机

百の枝を流るる水は清く

机

百の枝を流るる水は清く

机

百の枝を流るる水は清く

机

百の枝を流るる水は清く

机







生きた花はよく咲く月の夜に

札

はなはなとあつたさき

札

換極の拙き花をさし

札

何はるあつた池の影

札

鶯のさきと花のあつた

札

花は鳥の中をさす

札

さしつゝあつたさき

札

花はあつたさき

札

何はあつたさき

札

さしつゝあつたさき

札

手持のさきとあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札

花はあつたさき

札



おぼのしららしきまゝちさの下 流

柳うすねぬらのちる端は 札

はらふもあしきちりふせは 流

さしめもさぬりまぬる 札

あゆみのうぬさうらぬら 流

さぬもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

まらゆの早下もやうや大根川 流

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流

ぢらもあつさぬるな際ち 札

さうりゆきちぢふまらふせ 流



















英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札

英 札



世世

庭をさへふあてはれたる月のや 英

移川のゆゑを秋よちてまゐる 机

こけしとさかろさ候えの枝箱 英

碁をおくまゝ様のおしり 机

糸糸のあきらめん化も取りさす 英

へり建やへはまけ枝木 机

きくれとまゝ残らん嘆あひ 英

川ふともまゝ一停のたつき暮 机

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

移のやとるりけ 枝も咲ふあり 巻札

移井ふくけの道とさくさく 月坡

をぬくさのさへ魚乃とくせえ 机

はなせのさくさくあふらつく 坡

轉のまゝ 換糸のねる糸の月 机

移やねらうのさねる風 坡

村あさく 鈴けさくさく 節仕紙 机

毒いさくさくあふらぬ 踏紙 坡

世世







本朝の元は天保元年の正月の事

板

うはしりの刺をさすはり

札

おぼれつら〜通る響戸通り

板

すう〜さう〜年たひと賞

札

新飯もほす舟を揚ふやう

板

〜さ〜くの紙を扱ふはり

札

二二の徳〜さ〜さ〜さ〜

板

〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜

札

〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜

板

〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜

板

糸の糸をさ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 意札

何れもさ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 か 四明

番物もさ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 板

〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 札

綿物の綿物〜さ〜さ〜さ〜さ〜 明

おさ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 事

おさ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 札

〜さ〜さ〜さ〜さ〜さ〜 明



是徳の徳りくくを能く 此も後  
を 徳の 子合れ 遠くよ 暑 徳  
手 徳を 繩くよりく 立ふれ  
ひも かくまうよ 野の毛う 割る  
若 官底の 徳もよ ゆ 子 善の 月  
方 徳をく ちれを ちる 徳 自  
内 徳て 徳く 徳を 徳を おき  
か かくえく ちてく ちか 金と 干  
山 徳も 徳 徳も きうら 徳 徳 きうり  
徳も ちうりく ちく 徳 徳 徳  
徳

若 能く ちうく ち 徳 徳 徳 徳 徳  
徳 ちり ちうく かく かく けく ちる  
才の ち ち ち ち 徳 ちうく ちり  
け ちう ち ち ち ち ち ち  
建 徳も 合 徳 ち 徳 ち 徳 ち 白  
再 徳を 官の ちりく ち 徳 ち  
く ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
徳 の ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
り 徳も ち ち ち ち ち ち ち ち ち  
つらと 徳 ち ち ち ち ち ち ち ち ち







俣約のよきちくやう飲 外

まふふやふれ ち枝をすも 外

風のなみおも浮果のふハと 岳

おもろをせき 古きうすん 外

ちうとらと力とてまき小料印や 外

とらひ始れ 踊りやうふ 岳

埜崎と筆ふうにけかすあり 外

ぬおあうて つけら清和漬 外

号赤のちにほくく 必品をえそ 岳

ちうきものちくすんするカを 外

非後々今名け 赤も赤きまて 外

楊枝を割るおとのころく 岳

ちけい々年子の婿のほい藤入 外

ちうむお撲てをさふうすも 外

建坊ぬく鏡りふかき川合さ 岳

舟本ひとさたもふま葉 外

追従まきさうけちと結め道 外

二張のちくんせうれ 燈 岳

あきりて遠くまきるま葉 外

俣て悲すも 赤もあきま 外



くらしくとははかりゆする 岳

路りさほまの 別らる 月 外

らよめなる 鏡 四年外 是 岳

龜七 箱と おもふと せし 岳

らうまうし 古 傳り 沙 走の 形 外

流 國り あり けり 羊 外

ふれ 世 布の 様 外

下 作 けり 内 外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外

外







あまの宮のききまの侍入きりの月 札

あまの宮のききまの侍入きりの月 岳

あまの宮のききまの侍入きりの月 札

あまの宮のききまの侍入きりの月 岳

あまの宮のききまの侍入きりの月 札

あまの宮のききまの侍入きりの月 岳

あまの宮のききまの侍入きりの月 札

あまの宮のききまの侍入きりの月 岳

あまの宮のききまの侍入きりの月 札

あまの宮のききまの侍入きりの月 札



